

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	ミクス・テオドラキス作曲オディッセアス・エリティス『アクション・エスティ』：解釈と評価のアプローチ法
Author(s)	土居本, 稔
Citation	プロピレア , 27 : 98 - 98
Issue Date	2021-12-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00051906
Right	Copyright (c) 2021 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



ミクス・テオドラキス作曲
オディッセアス・エリティス『アクション・エスティ』
——解釈と評価のアプローチ法——

土居本 稔

1959年にオディッセアス・エリティス（1911-1996）は代表作の詩集『アクション・エスティ』を発表した。ミクス・テオドラキス（1925-2021）が1962年にオラトリオとしてこれに作曲して、1964年に初回公演が行われた。そして、1979年にエリティスはノーベル文学賞を受賞した。

ミクス・テオドラキスが作曲した『アクション・エスティ』の解釈と評価のアプローチ法について、以下の10項目を挙げた。

解釈と評価のアプローチ法：

1. エリティスと『アクション・エスティ』の文学史上の評価
2. この詩の大衆の受容に対しテオドラキスの作曲は貢献したか
3. この作曲がエリティスのノーベル文学賞受賞にどのように影響したか
4. エリティスはテオドラキスの作曲をどう思っていたか
5. 作曲の際にこの長い詩から詩句がどのように選択されたか
6. 楽譜（総譜）の分析
7. ビザンチンの、民俗的なメロディ、ハーモニーの選択した詩句への適応
8. ストラヴィンスキーの作品との比較
9. 音楽学者、文学研究者等の評価
10. 音楽芸術と言語芸術の融合についての政治的立場を考慮した総合評価

総譜中のミクス・テオドラキスの序文『アクション・エスティ』メタシンフォニック音楽への一歩」と詩人イユリータ・イリオプールの前文「この新しい讚美歌」の抄訳を紹介して、作品の解釈と評価を行う際の、音楽的、及び文学的側面を解説した。